

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(総務部)	記載者 小野寺 康	
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者、同窓会、地域社会の理解を得ながら本校教育活動への協力体制の強化に努める。 2. 災害や事故などの緊急時における危機管理体制の強化に努める。 3. 他分掌や学年との連携を図り、諸行事や各種事業が円滑に行われるように努める。 			
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. むつみ会、あさひ会、あげまき会との連絡調整を行い、行事等への参加・協力体制を強化する。 2. 学校安全計画や防災避難訓練等、安全計画の内容を見直し、危機管理への具体的な対応を整備する。 3. 各種事業が組織的に行われるよう分掌内や他分掌、学年部との連絡調整を図り協力体制を築く。 4. むつみ会役員・評議員と連携を取り、PTA活動のあり方を工夫して各種事業に取り組む。 			
具体的な取組状況	前期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・むつみ会総会前に授業参観を実施した。昨年度の廊下からのみの参観から教室内での参観を可とし、全教室に授業の内容を掲示し、より参観しやすい環境整備を行った。 ・北高祭直前に、放送にて不審者対応と避難場所についての確認を行い、不特定多数の人間の出入りへの注意喚起を行った。 ・職員連絡ボード、クラスルームへの情報掲示を積極的に行い、情報の共有を非対面で進められるようにし、ミーティングに時間を割かれないように運営を進めた。 		総合評価
	後期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の秋の交通安全指導に、むつみ会からは高P連の登校時一声運動・マナーアップ運動として26名(昨年度25名)という多くの評議員から参加いただいた。 ・保護者アンケートにおいて「項目14 むつみ会活動」に対する評価は3.50(昨年度3.52)と昨年度とほぼ同様であった。また「項目4 学校生活の様子を保護者に伝えているか」については3.32(昨年度3.26)と微増であった。 ・冬季休業前後の儀式を、生徒の体調管理を最優先し、リモートで実施した。 ・2月の第2回評議員会を昨年度同様、情報交換会を行わない形で実施した。 		B
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会への参加数、保護者アンケートの回答率が減少傾向にあること。 ・保護者アンケート「項目4 学校生活の様子を保護者に伝えているか」の数値が全体平均(3.57)と比較しても低いこと。 	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・総会前後での情報発信を増やし、北高の教育活動に関心を持ってもらえるようにすることや、情報配信を計画的に行い、重要な情報が埋没しないように配慮する。 ・他の分掌と連携し、学校生活の様子を総合的に配信していくため、情報配信ツールの活用計画を作成する。 	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総会に出席しない保護者のために、総会のビデオ録画をオンデマンドで見られるような工夫を考えてもよい。 ・地域や保護者の理解を得るためにも学校からの情報発信を工夫してください。情報を共有することによって理解が深まると考えます。 ・保護者と学校そして他分掌繋ぐ中核の組織として、引き続き円滑な運営を期待しております。 ・地域の方々や保護者とも連結し、生徒の安全を図り落ち着いた勉学環境を守っている。 ・むつみ会役員・評議員と連携を取りながら、PTA活動を工夫しながら各事業に取り組んでいて素晴らしい。 		評価	
			A	

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名（教務部）	記載者 松山 茂樹	
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程が効果的に運用されているかを検証する。 2 教務諸規定の適正な運用を図る。 3 授業改善に取り組み、生徒の学力向上を図る。 		
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程が、生徒の進路志望達成に向けて学力の充実を図るものになっているかを検証する。 2 成績に関わる指導の適正化と諸表簿の整備、内規の見直しを行い、学校全体の教育活動を円滑に進める。 3 「北高型授業」「北高型発問リスト」について教員間で共通理解を図り、学力向上に結び付く効果的な授業の在り方を探究する。併せて定期考査の実施方法と学習評価の在り方を検討する。 		
具体的な取組状況	前期評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 現教育課程の大きな改定は今のところ予定していないが、数学科から3年次における教育課程の運用の変更についての要望があった。来年度からの運用に向けて、教育課程委員会・職員会議に向けての準備を行うことができた。 2 新指導要領の全学年実施に伴い、より適切に評価が行われるように評価に関する内規を改定した。 3 指導主事訪問に向けての授業改善取組事項が決定したことを受け、研究授業の指導案に「知的好奇心を引き出す発問」、またその発問が効果的であったかどうかを評価するルーブリックを組込むようお願いをした。授業者以外の先生も参観、協議会を通して、「北高型授業」、「北高型発問リスト」を再確認していく働きかけをしていく予定である。 	総合評価
	後期評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程検討委員会を開催し、令和7年度以降の3年次の数学の運用について、承認を得ることができた。また、同委員会を通して、各教科主任に教育課程で改善すべき点について検討を打診した。 2 教務諸規程における所属学年の認定、および卒業に関する項目について、意図しない解釈がされる可能性がある箇所について、改訂を行った。 3 2回目の指導主事訪問時の研究授業を通して、「北高型授業」、「北高型発問リスト」について教員間で再確認ができた。また「知的好奇心を引き出す発問」の工夫、およびルーブリックを用いて発問が効果的かどうかの評価という視点を与えることができた。 	B
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程をより教育目標を達成しやすいものに改善していく必要があるかどうかの検討が必要である。 ・校務支援システムについて、使用範囲の拡大の検討が必要である。 	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の改善に関しては、教科部会や学年部会で、新教育課程を実施したこの3年間の総括と改善の必要性を議題として開催する。 ・校務支援システムについては、やみくもに使用する機能を増やすのではなく、校務の軽減ができることを大前提に、使用する機能について教務部会で検討する。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムは、「支援」の効力を発揮できるよう、使いやすいものだけを精査すべき ・「情報」の扱いなど教育課程の変更は大変な作業になるとは思いますが、教育目標達成のため注力していただきたいと思えます。 ・北高らしさ、強味を教職員が共有し、他校との差別化を図ることで北高ブランドの更なる向上に努めて下さい。 ・先生方の並々ならぬ創意工夫、ご尽力で生徒の勉強意欲を喚起し、大学進学にも大きな役割を果たしている。 ・生徒の学力向上を図り、手厚い指導を実践している。 		評価 A

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(生徒指導部)	記載者 牧野 太
重点目標	1 自他共に生命を大切にすることを心育に努める。 2 自主・自律の行動と規範意識の向上に努める。 3 基本的な生活習慣の確立に努める。 4 学習に専念できる諸環境の整備に努める。 5 保護者・地域社会・諸機関と良好な関係を構築し、ともに手を取り合い生徒を育む体制作りを努める。 6 全職員による共通実践のため、各分掌・各学年との密接な連携を図る。		
具体的な計画	1 自らが事故を招いたり、事故に巻き込まれないように、責任ある行動を心懸けさせ、規範意識や安全な行動(生命の大切さ等)について集会等で注意を促す。 2 端正な身なり、挨拶の励行、交通ルール・マナーの遵守を心掛けるよう指導するとともに、風紀・交通安全委員会の自主的活動の支援に努める。職員、生徒合同の昇降口指導や交通安全指導を年2回以上実施する。 3 登校時、授業時の遅刻を防止し、規律正しい生活を心掛けるよう指導する。 4 「学校生活困りごとに関する調査」を年2回以上実施し、生徒の悩みの早期発見に努め、職員全体で対応する。 5 保護者や地域の方々からの声を受け止め、生徒の健全育成を援助するよう心掛けるとともに「生徒指導だより」等を発行し、学校の教育方針の啓蒙を図る。		
具体的な取組状況	前期評価	・軽微な交通事故の件数は減ったように思われる。しかし、ルール・マナー違反が目立つのは変わらない。警察から自転車の指導警告が例年に比べ多く、苦情を伴う自転車運転など改善がみられなかった。 ・安易なSNSの書き込みなど、生徒の悩みや言動について継続的に注意する必要がある。 ・不審者被害の報告はなし。不審者被害については、時間が経過してからの報告が多く、他の人が被害に遭わないために通報の必要性を指導していく必要がある。 ・普段から態度、行動について言われている生徒が複数おり、何かが起こる前の指導の必要性・重要性を再認識した。 ・朝学習に間に合わない遅刻はほぼ同じ生徒である。学年部との連携を強化して改善を目指す。 ・地域住民の方々へは、生徒の自転車・歩行、送迎の車で迷惑をかけている面があり、指導の継続が必要である。	
	後期評価	・全体とすれば、北高生は伝統的に、思いやりの心を持った者が多く、「生命を大切に」する心はあると思うが、不用意に相手を傷つける発言をする者がいたり、交通ルール・マナーを守らない者がいる。継続的な指導が必要。 ・一部の生徒に限られてはいるものの傘の盗難が断続的にあり、更なる規範意識の向上に努める必要がある。 ・PTA(むつみ会)合同の交通安全指導を行った。今後とも連携を深めていきたいと思う。 ・クロームブックの利用についてルールを逸脱した面があり、指導の仕方が問われていると考えている。良心に訴える指導が必要である。	
今年度の課題	・交通ルール・マナーの遵守 ・いじめ防止 ・SNSの使い方への指導 ・各種参加願いの再考(紙ベースからの移行)	今後の改善策	・しつこく指導。 学年、学級担任との連携強化。 ・心配(目立つ)な生徒への目配り。 ・発達障害の生徒への対応。 ・貸し傘を継続。 ・被害にあったら、すぐに申し出を。 ・良心に訴える指導。
関係者評価	・自転車に関してはヘルメットの着用率が気になります。 ・生徒気質が変化している中で新たな課題も見られると思います。課題を共有し、学校全体で指導にあたっていただきたいと考えます。 ・生徒の様々な生活環境に対する安全対策に配慮され、学生とはいえ社会の一員であるという意識を醸成して下さい。 ・社会のルールを守り、自主・自立の意識を持って学校生活を送るよう指導している。 ・事故に巻き込まれないよう最新の注意を図り、生徒の安心安全を守っていて素晴らしい。		評価
			A

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(進路指導部)	記載者 藤田 理	
重点目標	<p>「生徒を育てる場」から「生徒が育つ場」への転換</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に学びに向かう生徒を育むための支援を行う。 2 本校の進路指導力の向上を図る。 3 職員間の情報共有を図り、全職員で進路指導の実践にあたる体制を確立する。 			
具体的な計画	<p>【3学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業第一主義を継続し、平日補習等を活用し、受験に対応できる学力を養成する。 (2) 効果的に進路情報を提供し、生徒が進路目標の達成に向けて主体的に取り組めるように支援する。 <p>【2学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 主体的に学習に向かう習慣の定着と学習時間の増加を図る。 (2) 進路志望に応じた「課題研究」を実施し、生徒に進路実現に向けた具体的な戦略を考えさせる。 <p>【1学年】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒に自己理解を促し、各自のキャリア目標を設定させる。 (2) 主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 			
具体的な取組状況	前期評価	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外補習やハイレベル教養講座を通じて、受験に向けた取組を着実に進め、校外模試等の成績を上昇させつつある。 ・生徒の進路実現に向かう主体性が高まってきた。そのために適宜進路通信や学年通信を発行し、生徒との情報共有をきめ細かく行い、支援した。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路講話の実施や進路通信の発行を通じて、生徒のキャリア意識の涵養に取り組んだ。 ・1年次から継続しているCBTへの取組状況から、生徒の学習への主体性にやや個人差が生じてきている。 <p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育と学力向上に向けての初期指導を計画通りに進めることができた。その際、進路通信を適宜発行して、生徒との情報共有を図った。 ・年度当初から実施しているCBTの取組状況から、生徒が主体的に学習に向かう姿勢を継続できている。 		総合評価
	後期評価	<p>【3学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課外補習や個別試験対策講座、エキスパート制による個別指導を通じて、生徒の学力向上を適切に支援し、進路実現の成果をあげることができた。 ・生徒や保護者との個別面談や進路通信や学年通信の適宜発行を通じて、生徒、保護者との情報共有をきめ細かく行い、キャリア実現に向けた生徒の主体的な取組を支援できた。 <p>【2学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究や「あげまき宣言」の作成、起業家教育プロジェクトの実施を通じて、生徒の主体性を喚起させてキャリア意識の確立を支援できた。 ・進路講演会や進路通信の定期的発行を通じて学習への意識を涵養し、CBTへの取組を活用しながら学力の向上を図った。 <p>【1学年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文理選択の指導や小論文対策、起業家教育プロジェクトの実施を通じて、生徒の主体性を喚起させて、キャリア意識の涵養を支援できた。 ・進路講演会や進路通信の適宜発行を通じて学習に向かう意識を喚起して、CBTへの取組や確認テストの活用を通じて基礎学力の定着を図った。 		A
今年度の課題	<p>課題1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育、進路指導、教科指導、総探、課題研究の相乗効果を高める指導の工夫。 <p>課題2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個別最適化を図る学習指導や進路指導の工夫。 <p>課題3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テストや個別試験の土台となる「読解力」「思考力」「表現力」を高める指導の工夫。 	今後の改善策	<p>課題1・2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年部の協力により「北高進路指導3か年計画」を修正する。 ・各教科の協力によりSS65以上の生徒を育成するためのレベル別課題や習熟度別講座を検討する。 ・エキスパート制の運用を工夫する。 ・難関大指導の実践を検証し、職員研修を行う。 <p>課題3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務、研修部と連携し、授業の質を向上させる。 ・「自求テスト」「自求レポート」を継続的に工夫する。 	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の理工系はくり入試(受験時に学科を選ばず、2年次進学時に成績で志望学科やコースに振り分け)が増えているので、そのためのキャリア指導は退学などを減らすために重要。 ・キャリア教育の推進、進路指導など幅広い分野の御指導ありがとうございます。引き続き生徒を育むための支援をお願いします。 ・全体的な学力向上を図ると共に、難関校に挑戦する生徒への指導体制を強化し結果を出すことで、北校生がより高い目標を掲げる機運を作って欲しい。 ・主体的に勉学に取り組むことは学問を通して生きる力を育てている。大きな世界に飛び立つ生徒たちの将来が楽しみです。 ・主体的に、学びに向かう生徒を支援している。 		評価	
			A	

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名（研修部）	記載者 佐藤 高		
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 組織的な授業改善の充実を図ることで、キャリア教育を推進する。 2 研修成果を共有し活用し合うことで、学校力の向上に資する。 			
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 個人や教科による教材研究の充実を推進する。 2 教科の枠を超えた授業参観・研修を推進する。 3 県内の各大学や関係機関との連携を密にする。 4 全職員が研修の機会を得られるよう情報提供する。 5 紙面や報告会等を通じて研修成果を共有し合い、活用を呼びかける。 			
具体的な取組状況	前期評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業研修については、前期相互授業参観において、他教科の参観を中心に行った。 2 生徒対象授業アンケートについては、考える時間を確保した授業、自分の考えを伝えたり表現したりできる授業および見通しをもって学習に取り組める授業についてアンケート項目に含めた。 3 教育実習生、インターンシップの受け入れを通して、各大学・関係機関との連携を図った。 4 研修機会の情報提供については、センターテーブルにPDFで保存するとともに、共有ドライブにリンクを張って提供した。 5 授業アンケートの結果をまとめ教科で活用するよう呼びかけた。 		総合評価
	後期評価	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導主事訪問時のものも含め、各教科における研究授業等を通し、教科研修の充実を進めた。 2 後期相互授業参観において、他教科の参観を中心に行った。 3 秋大数学科「なるほど数学」の受け入れ、新規学卒者等研修を通して県内大学との連携を図った。 4 研修機会の情報提供については前期同様、共有ドライブを利用した。 5 研修成果の共有については、印刷物にせず、分掌の公開フォルダにて閲覧できるようにした。 		B
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観、研究授業に、より多くの職員が参加できるようにする必要がある。 ・ICT機器等についてさらに効果的かつ多数の方に使用していただく必要がある。 	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任と連携し、呼びかけを強化する。 ・ICT機器等の研修機会をさらに紹介し、校内でも設定する。 	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・秋田大学との連携は、教諭の負担が減る方向であれば、どんどん活用してほしいと願っています。 ・業務多忙の中とは思いますが、授業改善に向けた研修を中心に進めてください。 ・教職員のスキルアップを生徒たちの心の成長、学力向上へ着実に繋げて下さい。 ・研究熱心な先生方のご尽力で確実に成果を上げている。少しだけ心配な点は、今後のAI社会です。 ・県内の大学機関との連携を大切にしている。 		評価 A	

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名 (保健・教育相談部)	記載者	川村 桃子
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の心身の成長を支援する体制を整えて、主体的に心身の健康の保持増進を図る生徒を育成する。 2 学校の環境衛生への意識を高め、感染症対策等を主体的に実践して健康の増進を図る生徒を育成する。 3 校内の環境美化に努め、生活・学習環境を主体的に整える生徒を育成する。 			
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員間における情報交換を定期的に行い、生徒の心身の状況および校内環境についての課題を共有化してチーム体制による早期の対応に努める。 2 保健便りや教育相談便り等を定期的に発行し、心身の健康や環境衛生等について日々考える機会を常時提供する。 3 心身の健康の保持増進のために、生徒向け研修会や職員対象の研修会等を実施する。 4 日々の清掃など学校生活を通して校内の環境美化を図る意識を醸成する。 			
具体的な取組状況	前期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の状況に関する情報交換を行い、共有化を図ることができている。 ・保健便りにて心身の健康増進の向上を図る手立てを講ずることができているが、感染症予防対策の継続的な実施について徹底できないところが見られた。 ・AED講習会を1年生と教職員を対象として実施し、救急救命の技法と意識を高めることができた。一方、運動部員対象の実技講習は参加者が少なく実施に至らなかったため、次年度の実施のあり方を検討する必要がある。 ・美化コンクールを開催し、校内環境の整備と美化意識の喚起を図ることができた。 		総合評価
	後期評価	<ul style="list-style-type: none"> ・前期から継続して生徒の心身の状況に関する情報交換を行い、教員間で共有化を図ることができている。 ・保健便りを定期的に発行して、生徒の健康増進の向上に資する情報提供を図ることができているが、今後は心の成長に資する内容も厚くしていきたい。 ・11月中旬から12月初旬にかけて、スクールカウンセラーによるソーシャルスキルアップセミナーを開催した。参加した1年生23名のセミナーへの満足度も非常に高く、次年度以降も継続したい。 ・大清掃時には、学校全体でより丁寧な清掃を実施し、校内環境の整備に努めることができた。 		B
今年度の課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症対策の徹底化 2. 新しい環境や集団に適応できず、体調不良を訴える生徒が増えている。 	今後の改善策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職員連絡ツールや朝会などを通じて、明確な情報と対策等を迅速に提供して職員間の共通認識を図る。 2. 専門家、専門機関、また、学年、家庭との連携の強化と情報共有化を図る。 3. メンタルヘルスや特別支援体制に関する研修の機会を設ける。 	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒の素早い情報共有は、大変よい。 ・多様化している健康課題の克服に向けて学校が担う役割は大きいと考えます。保護者との連携も密にして取り組んでください。 ・〇心身の健康は豊かな学校生活を送る上で最も大切な事項。時代にマッチした適切な指導とフォローをお願いします。 ・心身健康を保ち、健全な学校生活を送ることは重要です。北高生は皆AEDを扱えるってすごいことだと思います。 ・心身の健康への保持・増進に努めている。 			評価
				A

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

	分掌名(情報視聴覚部)	記載者 鎌田 康範	
重点目標	1 データ共有の効率化等により、ネットワークの充実を図る。 2 情報機器の導入及び活用を推進させる。 3 視聴覚室の運営を円滑に行う。		
具体的な計画	1 職員間でデータのやり取りを円滑に行うことができるよう、ネットワークを管理する。 2 情報・視聴覚機器の保有状況を整理し利用状況を管理する。 3 より効果的なICT機器の導入及び整備を進める。 4 校務支援システムを効果的に運用できるようにする。		
具体的な取組状況	前期評価	1 現時点でネットワークに関して大きなトラブルもなく運用ができています。 2 インターネット環境、職員端末の環境ともに、業務に支障が出るようなレベルの遅さのもとで作業しなければならない状況があるが、Kitako-server2上のファイルの操作については十分使えるレベルである。本校は成績処理については校務支援システムを使っていないが、このようにネットワーク環境が改善しない限りは、校務支援システムを使わず、現状のようにkitako-server2上で行うのが現実的であるように思われる。 3 新しい校務支援システム上で調査書を出力できるように設定を行った。	総合評価
	後期評価	1 ネットワークに関して大きなトラブルもなく運用ができていたものの、インターネット環境、職員端末の環境ともに、業務に支障が出るほど遅い状態である。これらは校内で解決できるものではなく、端末のスペックの低さとNTT中央サーバーの問題である。そのため、学校側では対策が取れない状況である。 2 一方、Kitako-server2上の操作は安定している。前期の欄へ記述したことの繰り返しになるが、このようにネットワーク環境が改善しない限りは、成績処理は校務支援システムを使わず、kitako-server2上で行うのが現実的であるように思われる。 3 新しい校務支援システム上で調査書を出力できるように設定を行い、進路指導部で運用できるようになった。 4 BYODについての方向性をICT委員会として示すことができた。	A
今年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムに関して、校内システム管理者としての担当と、教務部としての担当と、進路指導部の担当…などのようにうまく分担することが今後の課題である。 ・BYODへ円滑に移行するためには問題点を整理する必要がある。 	今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの分担を考える必要がある。 ・BYODについて検討する必要がある。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク管理が、一部の教諭の負担に集中しがち(大学)でないか心配。 ・校内ネットワークの環境整備に向けてよろしくお願ひします。 ・公務支援システムが、確実に教職員の負担軽減へと繋がることを期待しております ・現時点でネットワークづくりは、先生方の膨大なご努力のお陰でトラブルも無く運営している。大元のサーバーの問題もあり、苦勞していらっしゃる様子。どんどん改善されると良いですね。 ・BVODへの以降に対して検討している。 		評価 A

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(図書部)	記載者 續 文明	
重点目標		1 社会の変革に対応した図書館の整備と資料の充実に努め、生徒の主体的な学習活動を支援する。 2 授業等の学校活動における図書館利用の活性化を図り、休業日も含めた読書・学習活動を推進する。		
具体的な計画		1 各学年・教科・分掌との連携を図り、図書館運営を円滑に進める。 2 学校図書館活性化モデル校(キャリア教育型)として実践研究を推し進める。 3 生徒会図書委員会の活動を工夫し、学校全体の図書館利用を促進する。 4 図書館の地域開放の在り方を再考し、地域貢献の形を模索する。		
具体的な取組状況	前期評価	1 各学年・教科・分掌との連携をとった結果、8月までの生徒への図書貸出冊数は、昨年比+33冊、授業利用時間数は昨年比-1時間であった。 2 キャリア教育の実践研究として、今年度は特に2年生で、総合的な探究の時間での図書の活用を推し進めた。2年生は本校の図書に加え、他の図書館の図書やCiniiからの論文を活用している。 3 図書委員会の北高祭企画により例年並みの来館者数だった。また昨年の図書館報が県で最優秀となった。今年も図書委員会中心に企画中である。 4 北高祭中心に開放し8月までの一般への図書貸出数は昨年比+5である。		総合評価
	後期評価	1 各学年・教科・分掌との連携をとった結果、12月までの生徒への図書貸出冊数は1,189冊で昨年比-44冊、授業利用時間数は38時間で昨年比-12時間であった。 2 2年生の総合的な探究の時間で、12月に課題研究の発表を行ったが、各ゼミの代表となった生徒の中で、図書館の図書を借りて研究の参考に使っていた生徒が4・5名おり、うち3名は図書をリクエストして借りていた。 3 図書委員会は、今年度の図書館報の企画として、図書館報創刊号の内容について調査した。 4 12月までの一般への図書貸出数は13冊で前期と同様昨年比+5である。		A
今年度の課題		今後の改善策	①昨年同様学年によって、図書館の図書を借りて読む、読まないの傾向がはっきりしている。その差をできるだけなくす必要がある。 ②授業の利用については、時期的に合わなかったり、ある教科で利用する年と利用しない年があることにより、差が生まれる。毎年コンスタントに利用してもらえるとよい。	
関係者評価	・フリーでアクセスできる電子ブック、小説から参考書、問題集まで、例えば丸善e-Book、 https://elib.maruzen.co.jp/elib などは生徒への活用を進めるべき。 ・図書館の利活用推進に向けて、教科、各分掌また、保護者の意見も取り入れながら取り組んでいきたいと思っております。 ・学力向上に限らず、幅広い教養を得ることが人生を豊かにすることを生徒たちに伝えて下さい。 ・図書・図書館は知識との出会い！文系・理系に関わらず、自宅では中々用意出来ない本があるところですね。更に、大型のスクリーンやTV画面で見たい画像を自由に見られると良いですね。 ・有効利用をしている。図書館報が県で最優秀になるなど、阪神力も素晴らしい。		評価 A	

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名(1年部)	記載者 高橋 健
重点目標	<p>3年間の目標:「主体性」と「考動力」の育成</p> <p>1年次の目標:生徒が日々の活動を通して自己理解を深め、他者を理解し、主体性が育つための環境づくりをする。</p>		
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 時間を守り、規則正しい生活習慣を定着させる。 2 総合的な学習の時間を活用し、自己分析する機会を多く設ける。 3 将来の進路目標を達成するために、基礎学力を定着させる。 4 職業人講話や大学出張講座、文理適性検査などの機会を通して、進路選択について深く考えさせる。 5 自己理解のために、担任や副担任以外に学年主任も面談を行い、様々な視点からアドバイスをを行う。 6 部活動や校外活動、生徒会活動に積極的に取り組むことで、個性を伸ばす。 		
具体的な取組状況	前期評価	<p>■遅刻する生徒がほとんどなく落ち着いて朝学習に取り組めた。今後も生活リズムを整えて体調管理を行い、感染症対策も徹底していきたい。</p> <p>■総合的な探究の時間では、ベネッセのキャリアナビを活用して、自己理解、学問理解、大学研究をテーマに課題に取り組ませた。後期は、志望理由書や自己PR作成の指導を予定している。</p> <p>■基礎学力定着を目的に、駿台atama模試を3回実施。受験結果を集計して分析し学年部で共有した。生徒には個人票を配付し、平均点や順位、偏差値などを提示した。進研模試、全統模試、駿台模試をまとめた成績推移表を作成し面談に活用できた。</p> <p>■文理適性検査ジブラボの実施、秋大工学部学科説明会への全員参加、業者による文理選択ガイダンス実施など進路選択について考える機会を多く設けることができた。</p> <p>■全員と主任面談を実施し、学校生活や進路についてアドバイスすることができた。</p> <p>■学校行事ではどのクラスも積極的に活動した。今後も運動部、文化部ともに個性を発揮して活動し、高大連携や企業体験など校外の活動にも意欲的に取り組ませたい。</p>	
	後期評価	<p>■学年全体的に遅刻や欠席は少ないものの、体調不良により休みがちな生徒が少しずつ増えてきた。今後も生活リズムを整えるように指導していきたいと思う。</p> <p>■総合的な学習の時間は、前期に引き続いてキャリアナビを活用することができた。進路研究の一つとして、志望理由書の作成に取り組ませることができた。</p> <p>■基礎学力定着のため、集中して授業に臨み、課題への取り組みなど家庭学習を習慣付けをすることができたと思う。英語科で実施している単語テストも、学年全体で意識付けをして意欲的に学習させることができた。駿台atama模試(CBT)は、各クラスの熱心な呼びかけにより年間を通じて受験率が高く、主要3教科の基礎固めとして活用することができた。</p> <p>■各クラス担任、副担任の面談やアドバイスにより、適切な文理選択ができたと思う。進路講演会「トップが語る秋田の企業」、業者による講演会などを実施して進路研究を深めることができた。</p> <p>■後期は学校行事が少なかったため、学年やクラス全体としての活動よりも個々の活動が中心だった。特に、高校生起業体験プログラムへの参加は、主体性を養う良い機会になったと思う。</p>	
今年度の課題	<p>■欠席することにあまり抵抗が少なく、定期考査なども体調不良で休む生徒もいた。健康管理の徹底が不十分だった。</p> <p>■キャリアナビを中心とした進路研究のみでは、進路実現に向けた具体的な方策を立てるまでには至らなかった。</p> <p>■学習面でリーダーシップを発揮する生徒の育成が不十分だった。</p>	今後の改善策	<p>■HRや面談等で健康管理をより一層意識させる。生活リズムを整えて健康的な生活を送るよう継続して指導していきたい。</p> <p>■進路通信や学年通信などを活用して、進路実現に向けた具体的な見通しを立てさせ、計画を立てて学習に取り組ませていきたい。</p> <p>■高大連携授業への参加や、個々の進路目標に応じた課題研究の取り組みなど、授業以外の活動にも積極的に参加させ、難関大向けの講座なども企画していきたい。</p>
関係者評価	<p>・文系・理系を問わない基礎学力の定着は、大変重要。文理融合は大学でも増えていく。</p> <p>・基礎学力の定着に向けた学年全体での取り組みは素晴らしいと思います。課題となっている上位層の育成に今後も力を入れてください。</p> <p>・早くから将来への強い憧れや夢を持つことが成功に向かう基礎となることを生徒たちに伝えて下さい。</p> <p>・娘が北高に入学した時、先生方から様々なアドバイスをいただいて勉強していたことを思い出します。1年部の先生方の熱心な取り組みに頭が下がります。</p> <p>・主体性を育む環境づくりを行っている。</p>		評価
			A

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名 (2年部)	記載者	工藤 正隆
重点目標	<p>3年間の目標：「主体性」と「考動力」の育成 2年次の目標：自己の特性から進路目標を考え、具体化する。その目標実現のため、規律ある生活を基に、自分に合った学習方法を工夫し、主体的に学習できる生徒を育成する。</p>			
具体的な計画	<p>1 生徒の進路目標の具体化の一助とするため、課題研究を通じ、大学での研究に触れさせる。 2 生徒の進路目標の具体化の一助とするため、クラス担任以外（特に学年主任）も面談を実施し、アドバイスをする。 3 日々の学習を充実させるため、規則正しい生活習慣の充実を図る。特に遅刻防止のため、朝学習の時間に3階フロアで登校指導する。 4 進路資料や進路講演会、などを利用し、各自の学習方法を考える機会を設ける。</p>			
具体的な取組状況	前期評価	<p>1 夏季休業中にフロムページのコンテンツ「夢ナビ」を利用し、大学での授業を経験させた。進路選択の幅を広げることに一役買っている。 2 昨年に引き続き、生徒1人1人との面談を実施している。進路目標の具現化というよりも、生徒理解が深まったことと、信頼関係が深まったことへの実感がある。 3 遅刻防止のために、4月から一貫して登校指導を実施しているが、目立った成果は、まだ無いが、現状の登校指導をもうしばらく続けてみようと思っている。 4 進路講演会は、2度実施した。講演会の直後は、生徒の意識が変わったことが実感できるが、持続性が無い。心に浸潤させる工夫が必要。</p>		総合評価
	後期評価	<p>1 課題研究は、それぞれが自分の興味に基づいた研究をし、大学での研究への興味を深めた。特に、数理探究コースの研究は、教育長賞を受賞する等、形に残る成果も収めた。 2 全クラス2回の面談は実施した。多いクラスで4回（担任2回、副担任1回、学年主任1回）実施している。少しずつではあるが、進路目標が具現化しているという手応えはある。 3 1年間通して登校指導を実施した。遅刻防止の効果は不明である。 4 1年生と合同で、大学入試合格者の話を聞く機会を設けた。自分の勉強方法を考える契機となったはずだ。2年生は成績上位者と下位者の格差が他学年より大きい。上位者は自分の勉強法を確立した生徒のようだ。他生徒にも、早期に勉強法を確立させたい。</p>		B
今年度の課題	<p>・11月進研模試では上はSS65以上が5名に対し、SS40以下が8名であった。格差が激しくなっている。下位者の底上げが急務。 ・成績上位者が謙虚で、難関大学を志望しない。SS65以上で旧帝大志望者は0人である。本人の希望に添った進路指導が正しいことと思うが、できれば、意識を変えていきたい。 ・欠席者が多い。減らさなければいけない。</p>	今後の改善策	<p>・上位者への講座(ハイレベル講座)よりも、下位者への講座(基礎講座、勉強の仕方講座)をする。 ・面談を充実させる。本人だけでなく、保護者とも密に面談する。保護者の意識も変えていきたい。 ・規則正しい生活習慣確立の徹底。感染症予防のため、うがい手洗いの励行。</p>	
関係者評価	<p>・学習面以外でも心身ともに健康で、楽しく充実した学校生活を送れるよう、指導を期待している。 ・面談を通して生徒の実態を把握し、指導に生かしていくことは大変有効です。時間はかかると思いますが、担任以外の協力も得ながら引き続き取り組んでください。 ・生活面、学力共に生徒一人ひとりに細かく目を配っている印象を評価します。 ・高校生活3年間を見据え、要になる2年生。先生方の熱心な取り組みと大学も活用し、自身の興味ある分野を見つけるようアドバイスして行くのは素晴らしい！ ・主体的に、学びに向かう生徒を支援している。</p>			評価
				A

令和6年度 秋田県立秋田北高等学校 学校評価

		分掌名 (3年部)	記載者 高階 一也
重点目標	<p>3年間の目標：「主体性」と「考動力」の育成</p> <p>3年次の目標：最高学年としての自覚と責任を持ち、自己の進路目標実現に向けて主体的に学び続け、学力と人間力向上を図る生徒を育成する。</p>		
具体的な計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 明るく元気に登校し、規律ある生活を送らせる。 2 礼儀やマナーを身に付けさせ、自然な挨拶や正しい整容を意識させる。 3 他者を尊重し自己を表現して、より良い人間関係を構築させる。 4 予習→授業→復習のサイクルを定着させる。 5 平日4時間、休日8時間の家庭学習を確保させる。 6 部活動や校外活動、係・委員会活動などに主体的に取り組ませる。 		
具体的な取組状況	前期評価	<p>■日常生活では最上級生としてルールやマナーを守り、規律ある生活を送ろうとする生徒が増加した。学校行事では生徒それぞれが持ち場で役割を果たし、成功に導くことができた。部活動では多くの生徒が納得できる成果を残し、全国大会でも多くの部活動で素晴らしい活躍が報告された。</p> <p>■7月の学習時間調査では平日平均2.0時間、休日平均2.7時間となっており、2月の調査よりもそれぞれ1時間弱増加したが、学年目標には程遠い状況である。受験生として授業を中心とした学習サイクルを確立させ、すきま時間なども活用した「学習時間の確保」、自分に合った教材を用いた「効率の良い学習」を引き続き促していきたい。</p> <p>■オープンキャンパスや高大連携授業、ボランティアなどの校外活動に積極的に参加し、進路につながる知識や経験を積むことができた。</p>	
	後期評価	<p>■最上級生として規律ある生活態度が見られ、落ち着いて学習に取り組める環境を整備することができた。</p> <p>■放課後や長期休業中の補習以外に、総探の時間の教養講座や系統別エキスパート制の指導などにおいても、生徒の主体的な参加が見られた。</p> <p>■部活動引退後は多くの生徒が明確な進路意識をもって生活するようになり、進路実現に向けて生徒の半数以上が毎日3時間以上の家庭学習を確保するようになった。</p> <p>■ホームルーム等を活用して、生徒と面談を行う時間を確保できた。また適切な時期に保護者面談を実施し、情報交換しながら丁寧な進路指導を展開できた。</p> <p>■学年・学級・進路通信を通して、必要な進路情報を随時提供できた。</p>	
今年度の課題	<p>■総合型選抜や学校推薦型選抜の出願において、学習塾の意向による、生徒の特性に合っていない受験が散見された。</p> <p>■受験生への切替を促すために7月PTAで進路講演会を実施したが、その他にも早期から仕掛けが必要であった。</p> <p>■難関大志望者のグループ化と対策を、早期から計画的に行う必要があった。</p> <p>■学業や課外活動、校外活動などにおいて成果を上げ、評価できる活動を行った生徒が多くなかった。</p>	今後の改善策	<p>■総合型選抜や学校推薦型選抜については、生徒にメリット・デメリットをしっかりと理解・納得させたうえで、個々の特性に合った受験となるよう努める。</p> <p>■進路実現に向けて、高校入学段階から意識付けを行い、モチベーションを維持・向上させるための仕掛けを年間計画に盛り込む必要がある。</p> <p>■受験を意識し、学業だけにとどまらず課外活動や校外活動などにも主体的に参加する生徒を育成する。</p>
関係者評価	<p>・本人の意思の尊重を欠くと、大学入学後の不登校や退学につながるため、学習塾の勧めに関しては注意が必要かもしれない。</p> <p>・受験指導お疲れ様です。生徒の努力が実を結ぶことをお祈りします。</p> <p>・進学に対する強い動機付けのため、また進学先のミスマッチを防ぐため、キャリア教育を強化して頂きたい。</p> <p>・様々な興味関心・進路、勉強内容も一人一人違う中、生徒個々人と向き合うのは並々ならぬ努力です。娘も含め、先輩たちは先生方のご尽力に感謝しています。</p> <p>・学習面、進路面、生活面、部活動への支援等、多忙な生徒を全力でサポートし、進路決定へ導いていて素晴らしい。</p>		評価
			A